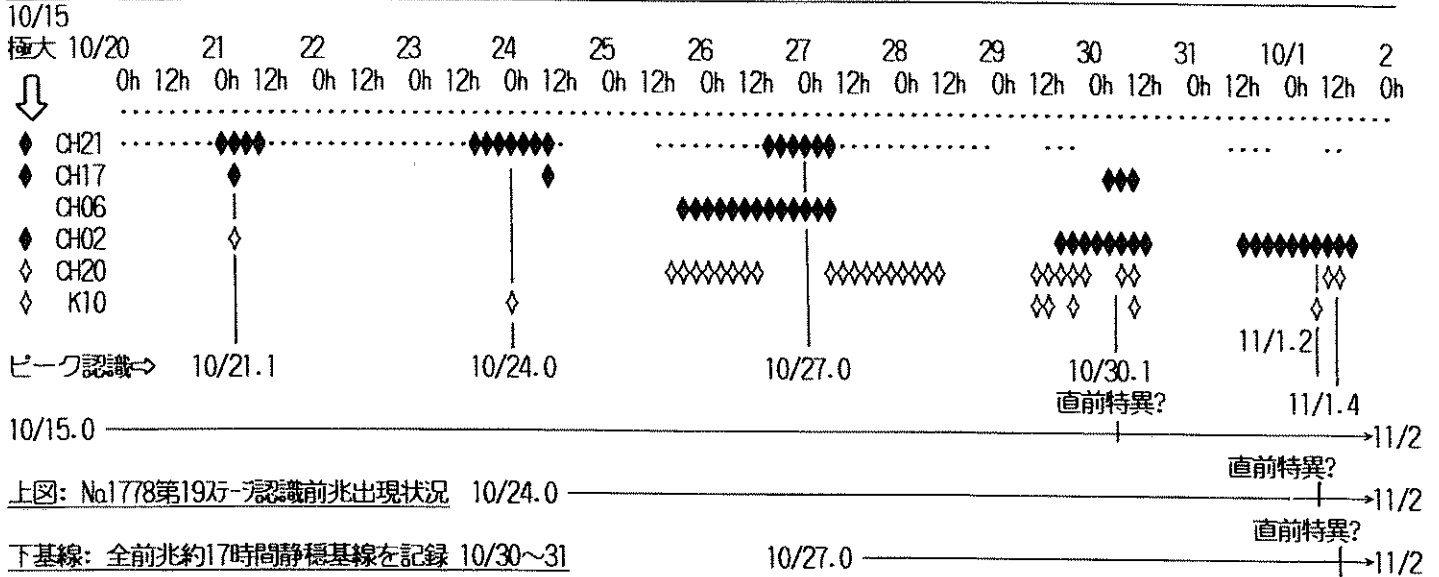


原稿校了後の前兆変化について

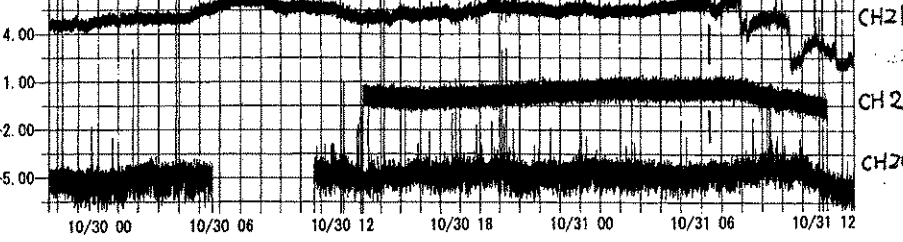
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 CH2糸状特異出現中 直前特異か11/2±極大か？



上図: No.1778第19ステージ認識前兆出現状況 10/24.0

下基線: 全前兆約17時間静穏基線を記録 10/30~31



上図: 10/15~10/21ピーク間隔は6日だが、他は3日間隔でピークが出現。上図の様な認識をした場合、11/2発生の可能性は否定できない。但し、11/1~2の現在が極大である可能性も否定できない。

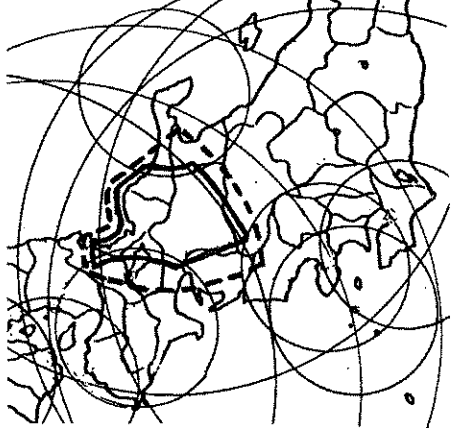
左図: 10/30昼過ぎ~31日の午前06時頃までの約17時間、全ての基線が静穏基線。完全に前兆が終息していた時間帯が出現した。

No.1778関連の前情報では、10/15極大と10/28極大認識で、最終極大認識10/27.0に対し、仮に他の前兆動向から示唆されている11/2±発生となる場合には、10/31.8に前兆終息の可能性が計算されることを報告致しました。

しかし、実際の前兆出現状況は、上に模式図で示したとおり、10/29夕刻からCH02に再び糸状状態が出現するなど、幾つかの前兆ピークが認識できる状況です。確かに計算上の静穏時期にCH21が極めて静穏な基線を記録してはいますが、前兆が完全終息していません。左上に示した様に10/30~31に完全静穏基線が、

実に17時間も継続したため、発生に至る可能性を考えましたが、現状の前兆再出現をどう認識するか難しいところです。上図に記入した様に最近のピークを直前特異と仮定した場合は、現在のCH02糸状特異は明日11/2未明まで継続し、11/2午前に発生の可能性は否定できません。しかし、前兆静穏化後の地震発生直前に $T_{map}:T_{pa}=6:1$ で出現する特異状態を主とした前兆の再出現は必ず出現する訳ではないため、上図は都合の良い解釈で、第19ステージが示した11/2±に対し、現在が極大である可能性も完全否定はできません。但し11/1 16時現在、CH21もほぼ静

- ◆推定領域: 右図点線領域内付近=大枠推定領域
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域
- ◆推定規模: M7.8 ± 0.5
- ◆推定時期: 可能性①=11月2日 or 3日
可能性②=11月03日夜段階で地震発生が無く前兆が継続出現していた場合は再考して続報で報告予定



◇推定地震種: 震源浅い陸域日本列島の地殻地震
◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)

穏状態で顕著前兆無し。現時点で明確な前兆出現は、CH02の糸状特異のみです。この現状が第19ステージが示した極大とは少々考え難いとも思われます。11/3発生の場合はあり得る可能性有。
11月03日段階で対応地震発生がなく、前兆が継続出現していた場合は、示された11/2±に対する極大の可能性。または、上の認識が根本的に間違っている可能性のどちらかとなります。
過去例に無い様な前兆出現状況のため、苦慮しております。